特集：Educational and Ecological Exhibition

実験河川における研究解説パネルの開発。

情報の受け手と送り手の双方から効果的な情報伝達について考える。

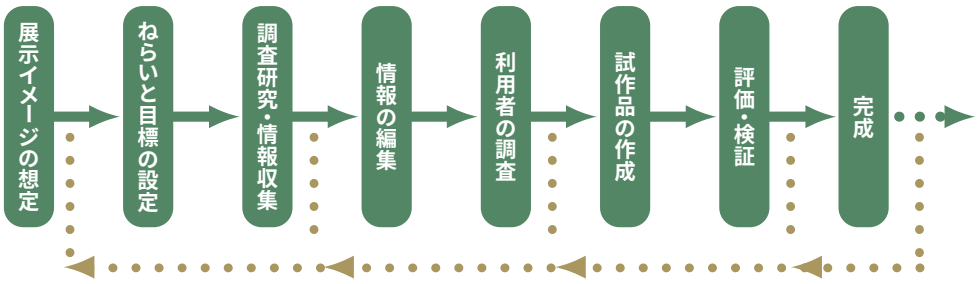
多くの人々が自然環境に対する認識を深めることは、環境に関する問題解決の第一の糸口であり、
環境教育は環境保全活動の基礎をつくる重要な取り組みであるといえる。
また、近年、環境に関わる公共的な事業を進めるにあたっては、アカウンタビリティー（説明責任）が重要とされ、
人々が知識や情報を共有し、合意を形成した上で取り組みを推進していくことが理想とされている。
このような観点からも、今日“情報を伝えること”が重要視され、
わが国では自然環境に関する情報提供の機会が飛躍的に拡大している。
自然共生研究センターでは、多くの人々に対して常時、
情報を整理して伝達することができる“展示”を研究テーマの一つに掲げている。
今回の特集では、河川に関する研究をわかりやすく解説するために行ったパネルの開発について紹介する。
これまでの展示開発の多くが作り手の一方的な進め方で行われてきたことを見直し、
利用者に参加を呼びかけ、パネルの評価・検証を組み込んで行った取り組みである。

自然共生研究センターの展示開発の進め方

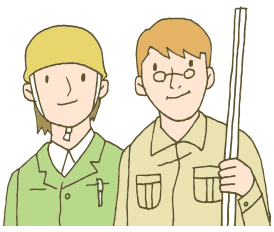
アンケートによる意識調査

試作パネルを用いて調査

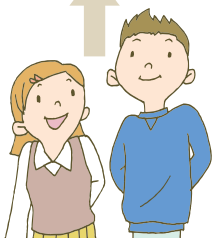
パネル完成後の調査



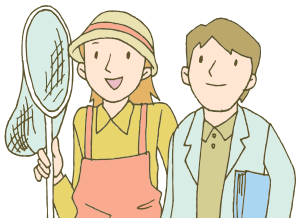
参画



○現場に携わる「河川業務関係者」



○次世代を担う「小学生」



○多くの関連分野の「研究者」

パネルの利用者に想定した3つの主要見学者層